

## 防災ニュース 第17号



## どうする!? 内水氾濫

～ 6月の豪雨被害を踏まえて ～

皆様こんにちは。6月2日（金）から3日（土）にかけて発生した線状降水帯は、24時間雨量が400ミリを超える豪雨をもたらしました。豊川市では幸いにも人的被害はなかったものの、道路の冠水や車両の水没、土砂崩れや浸水による建物への被害、農畜産業への被害など、大きな爪痕を残しました。被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

全国で時間雨量50ミリ以上の大雨が降った回数は、直近10年の年平均が328回であり、30年前と比較し1.5倍に増加しています。その中でも、東海4県では記録的短時間大雨情報（時間雨量100ミリ前後）発表回数が、岐阜と静岡が40回で全国一、三重が20回、愛知が17回と全国平均より上位にあり、被災のリスクは確実に高まっていると言えます。

## 1時間雨量と降り方の様子（気象庁による）

1時間雨量	雨の降り方
10～20ミリ	ザーザーと降る。地面一面に水たまりができる。
20～30ミリ	どしゃ降り。地面一面に水たまりができる。
30～50ミリ	バケツをひっくり返したように降る。道路が川のようになる。
50～80ミリ	滝のように降る。水しぶきであたり一面が白っぽくなり視界が悪くなる。
80ミリ以上	息苦しくなるような圧迫感。水しぶきであたり一面が白っぽくなり視界が悪くなる。

以下、6月20日現在で豊川市が公表した被害状況を踏まえ、私たちができる「災害への備え」を考えてみましょう。（出典：NHK防災情報、中日新聞（6月21日東三河版）、豊川市ホームページ）

## 1. 住家被害（全壊2棟（土砂被害）、床上浸水263棟、床下浸水147棟）

中小河川が越水した外、雨水が停滞して起きる内水氾濫が多発したため、被害は市内の広範囲に及びました。内水氾濫の原因は、大きく3つが考えられます。

（1）短時間の大量降雨で、用水や側溝の排水能力をオーバーする。

地下街等にいる場合は、急いで上部階へ垂直避難しましょう。

（2）中小河川や用水路の排水機能がマヒする。

本流の水位が上昇し、支流が氾濫する場合があります。

（3）低い土地に設置されている排水ポンプが機能を停止する。

平井ポンプ場と小坂井排水機場でも、施設周囲の水位が上昇したため、

安全確保のためポンプを停止しました。当時は放水路も氾濫危険水位を超えて満杯だったそうです。

ハード面の対策としては、止水壁や防水扉の設置が考えられます。

## 2. 非住家被害（61件）

事業所、倉庫や納屋なども浸水の被害を受けました。

## 3. 河川の越水（14か所）

音羽川、佐奈川、西古瀬川、御津川など14河川で越水が確認されました。

## 4. 道路被害（市道関係分）

(1) のり面崩壊	62件
(2) 道路陥没	15件
(3) 土砂の流失	68件
(4) 通行止め	33か所



## 5. 林道被害

21路線

## 6. 農業被害

(1) 農業施設被害	2億8千5百万円（農業用ハウス、畜産施設など）
(2) 農業被害	8億8千1百万円（市特産の大葉、花きなど）

## 7. 学校被害

2か所（床下浸水、落雷）

### 【 私たちができる「災害への備え」 】

台風や大雨などは事前に予測できる災害です。異常気象による被災リスクが高まる中、私たちができる「災害への備え」を考え、実行しましょう。

#### (1) 危険個所の把握と安全な避難場所・経路の確認

不動産事業者の「重要事項説明」、過去の被害事例検索やハザードマップなどで居住地域の浸水危険性を確認しましょう。豊川市では浸水想定を考慮して25か所の避難所を優先して開設しますが、安全な場所にあるかどうか、その経路は安全かなど、自分の目で確かめておきたいものです。

#### (2) 避難行動要支援者の「個別避難計画」作成と避難訓練の実施

本人やご家族に計画書に記入いただき、市に届け出ることできます。  
(記入できる範囲で可)

#### (3) 個別受信機の導入を検討

大雨の打ち付ける音で、屋外スピーカーの避難情報が聞こえない場合もあります。確認し予め検討しておきましょう。

#### (4) 用水路、側溝及び雨水ますの定期的清掃

下水道が整備されていても、側溝や雨水ますが詰まっていたら、排水が間に合わない場合があります。点検して清掃しておきましょう。

#### (5) 最新の情報を収集し、早めに避難

常に最新の気象情報を集め、周囲の状況を見ながら隣近所に声を掛けつつ率先避難しましょう。市の「避難指示」を待たずに早めの避難を。

#### (6) 「緊急安全確保」は垂直避難、崖とは反対の部屋へ

戸外への避難は「避難指示」までに終えましょう。今回、市全域に発令されたレベル5「緊急安全確保」は既に災害が起きている段階です。2階に上がるなど命を守る行動を即時実践し、屋外に出てはいけません。

以 上